

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102295		
法人名	株式会社山本アソシエイツ		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	香川県高松市塩上町一丁目4番10		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町受理日	令和6年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と家族様が安全、安心して生活できるように介護面でのケア以外に看護、医療面で迅速に対応できるように協力病院のやまもと医院の指示ですぐに対応もできる、夜間常時看護士勤務している為24時間対応できる、家族様が希望されれば看取りもできるように最後までケアをしている。  
レクリエーションに関しても月一回はなるべく外出していただけるように計画を立てている

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

私鉄駅ビル近くにある真新しい4階建ての建物の、2階から4階までが事業所で、1階は協力病院のクリニックとなっており、地の利の良い場所にある都市型のグループホームである。理念の一部に(地域の中で自立した日常生活を営むこと)とあり、医療的なケアを必要としている利用者にも、24時間の医療・看護・介護を提供することで、住み馴れた地域での生活を可能としている。また利用者や家族の要望に応じて、終の棲家として看取りケアにも取組まれている。職員は看護師や介護福祉士等の有資格者が多く在籍し、互いに学び合う環境にあり、日々進化している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和6年1月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	<input type="radio"/> 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	<input type="radio"/> 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
			<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
			<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
			<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス、事業所理念を職員全員、常に意識しケアにあたっている。意識するだけでなく、実際に行っているかをカンファレンスを交え、確認を行い、共有している	法人の理念は重要事項説明書に明記され、職員全員が意識して業務に当たっている。各ユニットでは理念を掲示するとともに、職員が話し合い具体的な行動目標を作り表示して、日々実践に励まれている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設全体で、コロナウイルス罹患者が出たこともあり、現在もコロナウイルス流行しているため、地域との関わりができていないところがある。今後もコロナウイルス感染状況を見て、地域との関わりを取っていききたい	事業所は商業地域で民家が少なく、事業所が移転して日が浅くコロナウイルス感染症対策の影響もあり、地域での情報が少ない。地域交流の必要性は理解されており、連携作りはこれからである	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解、知識を深める為、研修等に参加し、施設全体のスキルアップの為にその内容を施設内で共有している。また、入居相談等にも認知症に関するアドバイスも行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会であがった意見等を職員全員で共有して、話し合いを行うだけでなく、ケアを行う現場の状況を家族様にも報告共有し、不透明さをなくし、サービスの向上につなげている	運営推進会議は地域の方、市職員、家族等が参加し、事業所の利用者状況や感染症対応、身体拘束、事業内容などを報告、話し合いが持たれている。議事録や検討結果などは家族や職員に報告され、情報を共有するとともに運営に活かされている	事業所移転により、地域とのつながりが薄れている。地域の特性もあるが、自治会や民生児童委員、老人会などの代表者が運営推進会議に協力、参加することなどを通じたつながりの発展と地域への貢献に期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方が別件で施設へ来られた際も、情報交換を密に行い、コミュニケーションを図っていている	運営推進会議に市職員が参加して事業所の現状を理解していただき、直接役所に出向き職員に相談したり、手続きをするなど、必要に応じて様々な協力関係作りに努められている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な利用者であっても、身体拘束は行わず、安全面に配慮し、頻回な巡回、密なコミュニケーションを行う事により、リスク軽減に努めている	身体拘束廃止委員会は毎月実施され、点滴やレビン等の利用者のミトン装着について等議論が深められている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で困っていることはないか、ストレスになっていることはないか、コミュニケーションを密に図っている。また、利用者の立場になった考え方をケアに活かすように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を交え説明を行い、職員全員が理解でき、必要時支援できる体制作りを行っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入居相談時等、契約に関する内容、料金制度、看取り等の説明を納得がいくよう時間をかけ行っている。最後に質問を設け、不安がなく納得がいく体制作りを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会や利用者の状態報告の電話を通して、コミュニケーションを図り、意見や悩み事が相談できる環境作りを行っている	意見箱が各ユニットに設置されている。毎月やすらぎ通信と、手紙や利用者の状況報告が郵送されている。その他電話連絡の際には、意見や要望の聞き取りもなされている。面会時にも出来るだけ、家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望は管理者から運営者に伝え、職員とも話し合いが行われている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で行われた話し合った内容や意見、要望は代表者、管理者、職員全員に周知できるよう、議事録を作成し周知している	職員同士の人間関係はよく、まとまりが感じられる。管理者と職員の関係も良好で、職員の意見や提案は管理者から代表者に相談がなされている。会議やカンファレンスで話された内容や代表者からの伝達事項は記録し、職員にも回覧されている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間は必ず確保し、疲労感がたまらないような環境作りを行っている。また、職員間でのコミュニケーションを多く図り、関係性を築き、職場ストレス軽減に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修や勉強会に参加できるよう、ローテーションで参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学会や研修に参加し、共に情報共有、意見交換を行い、サービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、面談を行い、不安なことや困っていることに対して傾聴し、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族様の思いや要望に傾聴し、説明を行い、不安軽減に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する際、専門職として何が必要なのか、適している支援を見極め、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩でもあり、失礼がないよう、尊重した態度で日々接している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には必ず状態報告を行い、問題点があれば希望に添えた解決策を共に考えている。その他、急を要する事案に関しては、電話での状態報告を行い、不安軽減に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が馴染みの人との面会を行ったり、場所に関しては、外出をして支援を行っている	感染症対策で面会には制限があった時期もあるが、現在は居室に入り面会できている。友人や知人の面会は家族に確認してからの実施となっている。郵便や電話でも連絡取れるよう支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でコミュニケーションを図れる場面を多く設定し、楽しく過ごせる場面作りを行っている。また、個別的に話を聴いたりして環境作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去する利用者様、同じ系列施設へ異動となる利用者様には、移動時、声掛けを行い、移動後も職員間での情報共有を行っている。家族様についても手紙や電話等で連絡を取っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において適宜、声掛けを行い思いに寄り添い、状態把握に努めている。意思疎通が困難な利用者様に関しては、家族様より情報を得ている	日々の生活の中で寄り添い、様子を伺い、声を掛け、表情や言葉から利用者の意向が把握されている。また、家族等に相談して、情報を得ることもあり、利用者本位について考えるよう心掛けられている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様、友人等、今までの生活環境を聞き、生活をしていく上で、それらを反映していくように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1日の生活パターンを把握し、それに対する理解を深め、評価を行い活かせるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様利用者様の要望に寄り添い、それを反映できるよう職員全員でカンファレンスを行っている	月1回カンファレンスを行い、職員全員で介護計画について検討がなされている。状態に変化がなければ、モニタリングは3か月ごとに行い、計画作成者やケアマネジャがまとめた計画は、家族や利用者者に説明、話し合いが行われ、同意後実行されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の経過を記録しており、その都度必ず把握するようにしている。また、介護計画等にも反映し見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の希望、利用者様の希望をふまえ、個々に応じた必要なサービスに対応し、満足が得られるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会等、市職員の参加により、周辺状況や支援に関する情報共有、協力関係が築けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やまもと医院と24時間連携をとっており、急変時には迅速に対応できるように体制を整えている。また、家族様・利用者様の希望する医療機関とも情報共有し連携を深めている	事業所は医療連携で入居する利用者も多く、やまもと医院と連携して、支援が行われている。24時間オンコールで医師とつながり、緊急時の対応体制も確立されている。医師の週1回の訪問及び歯科医師による定期訪問も行われている。他の医療機関受診の際は情報提供など連携している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が24時間常駐しており、利用者様を状態観察を欠かさず行い、少しの変化があれば、すぐに看護師に相談し、状態の悪化の早期発見に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の日常生活上、入院が必要な場合、医療機関の情報提供を行っている。退院の際も入院生活の状況、退院時の状況を把握し支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設案内や家族様にも看取りができる施設であること説明し、利用者、家族様の希望を一番に考え支援している	希望があれば、終末期となっても継続した生活を営める事業所として方針を明確化し説明がなされている。看取り期になり、本人や家族が看取りを希望された場合には、医師や職員、家族と連携し、全体で意向に添えるよう支援がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日勤・夜勤帯は看護師が常駐しているため、利用者様の急変時は、迅速に対応ができるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員・利用者様協力のもと、定期的に避難訓練を行っており、職員は消火器の使用方法の訓練を行っている	避難訓練は年2回実施されている。建物は2年前に転居して、地域とのつながりはまだ少ない。グループ企業からの応援の検討がなされている	更に防災力の高い事業所及び地域づくりのために、運営推進会議等通じた相互協力関係の構築や地域との合同訓練の開催などへの発展に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務上知りえた個人情報、プライベートでも流出しないよう、職員全員に周知し責任ある行動を行っている	入居時に個人情報保護につき説明し理解が得られている。ケアは個別の対応基本とし、プライバシー保護に留意がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合った声かけを行い、最終的には自己決定でき納得ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人、行動パターンを把握し、希望に応じて個別性を活かした支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様・家族様の希望を聞き、月1回の訪問美容を利用し、カット・カラー等を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食作りを行っており、その際に利用者様に希望をとり、できるだけ希望にそえるメニュー作りを行っている	ご飯やお汁はユニットで準備、副菜は2業者が納入している。月に2回ほど利用者の好みを反映した手づくり料理を提供し好評である。口からの栄養摂取を大切に、おいしいものが提供できるよう努められている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人、食事摂取量をチェックしており、数日間水分や食事摂取量がとれていない利用者に関しては、高カロリーの栄養剤を摂取する等対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己で行えない利用者に関しては、スワブを用いてケアを行い、乾燥予防のためにも保湿剤も使用している。希望者は、訪問歯科を利用し口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握した上で、尿意のない利用者様も時間を決め、トイレ誘導を行い支援を行っている	日中は出来るだけ離床して過ごし、トイレでの排泄支援が行われている。排泄パターンに合わせ、個別にプライバシーに配慮した介助がなされている。尿意等の無い方も、時間的な把握を行い、おむつの使用が減少している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄状況を記録しており、便秘傾向にある利用者様に関しては、腹部マッサージや腹部温罨法を行ったり、乳製品や水分を多く摂取していただいている。上記のことを行い、排便がない利用者様に関しては、下剤を投与し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思疎通が図れる利用者様に関しては、必ず声かけを行い、希望を聞いている。意思疎通が困難な利用者様は、状態観察をしっかり行っている、拒否的な行動をとられる利用者様に関しては、日時を変更し対応している	個々の入浴希望を聞き、お風呂に誘導している。お一人あたりの入浴回数は週2回から3回となっている。毎日朝からお風呂の準備がなされており、入浴を拒否された場合にも、利用者の意向に合わせ気長く入浴が勧められるよう配慮、工夫がなされている。家庭用の浴槽と車いすから移乗出来るリフト式の浴槽が整備されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が送れるよう、日中はホールで過ごしていただいている。また、体調が悪い利用者様を早期に発見できるよう、日常的に表情・状態等を観察し、休息ができるよう支援体制を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の内服状況を把握するため、薬の名前・効能・副作用の説明書をファイルに保管し職員全員で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の生活歴や能力を発揮できるよう、日常生活を通し、洗濯物をたたむ等の役割をもつていただき、感謝の気持ちを伝えるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活において、歩行が困難な方についても車椅子やリクライニングチェア等で外出やレクリエーションで外へ出かけられるよう支援している	レクリエーション活動の一環として月1回は外出の支援がなされている。利用者には地元のおいしいお菓子を食べてたりと、喜ばれている。駅ビルに近く、日常的に近所に散歩出来る環境にある	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持を希望される方については、家族様の同意のもと、所持していただき、銀行や買い物際に直接支払いができるよう、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を送っており、利用者様の希望に応じて家族様への電話連絡や手紙を送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に季節感や生活感を感じていただくため、時期ごとに季節や行事を取り入れたレクリエーションを行っている。また、快適な空間を提供するため、共有空間の空調調整を行い、大きな音をたてないよう注意を払いケアにあたっている	リビング兼食堂はガラス面の2方向から光が入り、明るく温かい。日中は多くの利用者が、談話やレクリエーションをして過ごしている。職員の支援を受けながら、食事も揃って食べている。清潔感のある、静かな空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はできる限りホールにて過ごしていただき、利用者様皆が、そとをの景色を眺めたり、会話をする場を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が家で居るような快適な生活が送れるよう、家族様に働きかけ、思い出のある写真や品を部屋に置き、居心地の良い日常生活が送れるよう、環境作りに努めている	居室は清潔で掃除が行き届いている。ベッドや床頭台、洗面所が整備され、私物のテレビや写真などを置き、それぞれ居心地の良く過ごせるように工夫がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が快適に日常生活が送れるよう、バリアフリー、手すりの設置、部屋の目印等をつける等、状態に合わせた配慮を行っている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合い作った事業所独自の理念を各職員で共有し、日々のケアに活かしている。ユニットごとにケア目標を作りエレベーター前に掲示し実践している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症(コロナ)の影響で現在交流は行えていないがコロナが落ち着いたら交流を行えるようにしていきたい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	立地条件的に地域との交流は少ないが、施設に訪問があれば支援の方法などを話している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や外部評価・感染対策等について報告し参加者からの意見を職員ミーティングで共有し、レクリエーションなど入居者様・家族様に満足していただけるように努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外に市担当者・包括支援センターとは介護認定更新や入居者についての相談・助言など常に連携を取りサービス向上に取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月1回、3ユニット合同で行い、職員は拘束のないケアを理解している。徘徊のある入居者に対しては、見守りや付き添いを行い、安全を確保しながらその人らしい日常を支援している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等での話し合いにて、虐待防止に努め、入居者1人1人に対する声かけの方法についても職員間で話し合っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用された入居者がおり職員間で話をしている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明をするように心掛けている。心配ごとや疑問点などについて確認を行い理解いただけるように努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に入居者の生活状況などをお伝えすると共に、意見・要望を聞いている。意見・要望は職員間で共有し日々のケアに反映している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や代表者は、毎月の会議や随時、意見や提案を話せる機会を設けてくれている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と話し合う機会を設けたり、勤務評価をし昇給や賞与に反映させ職員がやりがいを持って働けるように配慮している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通して、話し合いを行い、職員一人ひとりが意欲を持って仕事ができるように環境づくりをしている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に交流がある程度

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり話しを聞く機会をつくり、本人の不安や要望を聞きできる限りすぐに対応できるように努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、今までの家での生活や、今後の入居生活についてご家族の要望を聞き、ご家族の不安や心配事が少しでもなくなり安心していただけるように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、しっかりと聞き取りを行い、その人らしい生活が送れるようにご本人やご家族が何を求めているのかを考えながら対応している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が何ができるかを見極め、小さな事でも役割を持っていただけるようにしている。また、職員と共に作業することで、喜びを共有できる関係作りをしている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望をご家族に伝え、一緒に出来ることは間に入り、ご本人とご家族がよりよい関係を築けるように努めている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、ご家族とは面会があるが知人・友人の面会はほとんどない。意思疎通が難しいご入居者の面会時は職員が間に入り会話がスムーズにできるように努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士で話をしたり、関わりが持てるように職員が間に入り機会を作っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に移動された時は、施設職員に様子を伺ったり、訪問時面会をしている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者一人ひとりの希望や意向を把握できるように努めている。困難な入居者に対しては、ご家族から情報を得たり入居者の立場になり考えるように努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人との会話から情報収集を行い、施設での生活に活かせるように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、十分な観察を行い、異変があれば他職員、他職種と情報を共有するように努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを行い、ご本人やご家族の希望を反映させた介護計画を作成している。状況が変化した場合はその都度職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成できるように努めている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は誰が見ても状況が分かるように記録するように心掛けている。毎朝、入居者一人一人の申し送りの実施や、連絡ノートの活用など、常に情報の共有ができるようにしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員間で話し合ったり、ご家族と相談し柔軟に対応できるように努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在地域との交流は行えていない。コロナの流行が落ち着いてきたら、ボランティアの受け入れなどの交流をしていきたいと思う
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が1階の協力医療機関を利用している。必要時状態に合わせた医療機関の受診は付き添いや介助をしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師が配置されており、日々の状態についての情報共有や相談ができています
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連絡を連絡を取り合い、病状や心身の状態を把握している。必要時、洗濯物の回収などを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期まで施設でと希望される入居者やご家族もおり、「看取り」についての説明や医療連携体制についての説明を行っている。ご家族や本人の希望は、その都度聞いて職員間で方針を共有し希望に添ったケアを実施している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに看護師が配置されており、日中・夜間共に看護師が常勤しているが、介護職員も対応できるようにマニュアルを作成している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回の防火訓練を実施している。特に勤務者の少ない夜間想定で訓練を行っているが、地域への協力体制は十分ではない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの気持ちを考え、声かけや対応ができるように心掛けている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で入居者一人ひとりの希望や意向を引き出せるように努めている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞くようにし、一人ひとりの個性を大切に希望に添って支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容師の訪問があり希望者は散髪を行っている。服装も自分で選び着ている方もいる
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に公方を聞き、一緒にメニューを決め3ユニットで月単位で交互に調理している。準備や片付けを一緒に出来る方は少ないが、食事の下膳やテーブルを拭いたり出来る事は自分でしていただいている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記載し、変化があればかかりつけ医に相談している。水分補給も本人からの訴え時や入浴後などこまめに行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができていないかの確認を行い、必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、随時および定時の誘導を行い、入居者ができる限りトイレでの排泄が行えるように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムを理解し、水分補給や適度な運動を心掛けている。必要に応じ下剤や浣腸にて対応している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、本人の希望に合わせて、時間をずらしたり曜日を変更したりとの方が入りたいと思うときに入浴できるように対応している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは、ご本人と話しをし不安や心配事を取り除けるように支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。また、内服の変更があった場合は看護師より説明をうけ、連絡ノートに記入し全職員が共有できるようにしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでもらったり、掃除を手伝ってもらうなど役割を持ってもらえるように支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスの影響で外出支援は行えていないが、コロナウイルスが落ち着いたら入居者の希望にそった外出支援ができるように努めたい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金を持っている方は少なく、本人の希望があれば職員が買い物に行っている。外出支援が再開したら、買い物支援などで入居者の希望にそった支援を行いたい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	品物は届いたときに、本人に電話をしてもらったり、年賀状を書いてもらったりしている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ手作り作品と一緒に作成し飾っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせて居室で過ごしていただいたり、ホールで過ごしていただいている。入居者同士、訪室して利している方もいる
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に本人の使い慣れた物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾り入居者ひとりひとりが心地良く、その人らしく過ごせる様に工夫している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来る事は時間が掛かってもゆっくり自分のペースですていただけるように支援している

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合い作った事業所独自の理念を各職員で共有し、日々のケアに活かしている。ユニットごとにケア目標を作りエレベーター前に掲示し実践している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症(コロナ)の影響で現在交流は行えていないがコロナが落ち着いたら交流を行えるようにしていきたい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	立地条件的に地域との交流は少ないが、施設に訪問があれば支援の方法などを話している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や外部評価・感染対策等について報告し参加者からの意見を職員ミーティングで共有し、レクリエーションなど入居者様・家族様に満足していただけるように努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外に市担当者・包括支援センターとは介護認定更新や入居者についての相談・助言など常に連携を取りサービス向上に取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月1回、3ユニット合同で行い、職員は拘束のないケアを理解している。徘徊のある入居者に対しては、見守りや付き添いを行い、安全を確保しながらその人らしい日常を支援している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等での話し合いにて、虐待防止に努め、入居者1人1人に対する声かけの方法についても職員間で話し合っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用された入居者がおり職員間で話をしている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明をするように心掛けている。心配ごとや疑問点などについて確認を行い理解いただけるように努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に入居者の生活状況などをお伝えすると共に、意見・要望を聞いている。意見・要望は職員間で共有し日々のケアに反映している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や代表者は、毎月の会議や随時、意見や提案を話せる機会を設けてくれている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と話し合う機会を設けたり、勤務評価をし昇給や賞与に反映させ職員がやりがいを持って働けるように配慮している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通して、話し合いを行い、職員一人ひとりが意欲を持って仕事ができるように環境づくりをしている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に交流がある程度

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり話しを聞く機会をつくり、本人の不安や要望を聞きできる限りすぐに対応できるように努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、今までの家での生活や、今後の入居生活についてご家族の要望を聞き、ご家族の不安や心配事が少しでもなくなり安心していただけるように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、しっかりと聞き取りを行い、その人らしい生活が送れるようにご本人やご家族が何を求めているのかを考えながら対応している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が何ができるかを見極め、小さな事でも役割を持っていただけるようにしている。また、職員と共に作業することで、喜びを共有できる関係作りをしている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望をご家族に伝え、一緒に出来ることは間に入り、ご本人とご家族がよりよい関係を築けるように努めている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、ご家族とは面会があるが知人・友人の面会はほとんどない。意思疎通が難しいご入居者の面会時は職員が間に入り会話がスムーズにできるように努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士で話をしたり、関わりが持てるように職員が間に入り機会を作っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に移動された時は、施設職員に様子を伺ったり、訪問時面会をしている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者一人ひとりの希望や意向を把握できるように努めている。困難な入居者に対しては、ご家族から情報を得たり入居者の立場になり考えるように努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人との会話から情報収集を行い、施設での生活に活かせるように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、十分な観察を行い、異変があれば他職員、他職種と情報を共有するように努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを行い、ご本人やご家族の希望を反映させた介護計画を作成している。状況が変化した場合はその都度職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成できるように努めている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は誰が見ても状況が分かるように記録するように心掛けている。毎朝、入居者一人一人の申し送りの実施や、連絡ノートの活用など、常に情報の共有ができるようにしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員間で話し合ったり、ご家族と相談し柔軟に対応できるように努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在地域との交流は行えていない。コロナの流行が落ち着いてきたら、ボランティアの受け入れなどの交流をしていきたいと思う
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が1階の協力医療機関を利用している。必要時状態に合わせた医療機関の受診は付き添いや介助をしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師が配置されており、日々の状態についての情報共有や相談ができています
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連絡を連絡を取り合い、病状や心身の状態を把握している。必要時、洗濯物の回収などを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期まで施設でと希望される入居者やご家族もおり、「看取り」についての説明や医療連携体制についての説明を行っている。ご家族や本人の希望は、その都度聞いて職員間で方針を共有し希望に添ったケアを実施している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに看護師が配置されており、日中・夜間共に看護師が常勤しているが、介護職員も対応できるようにマニュアルを作成している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年2回の防火訓練を実施している。特に勤務者の少ない夜間想定で訓練を行っているが、地域への協力体制は十分ではない



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの気持ちを考え、声かけや対応ができるように心掛けている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で入居者一人ひとりの希望や意向を引き出せるように努めている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞くようにし、一人ひとりの個性を大切に希望に添って支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容師の訪問があり希望者は散髪を行っている。服装も自分で選び着ている方もいる
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に公方を聞き、一緒にメニューを決め3ユニットで月単位で交互に調理している。準備や片付けを一緒に出来る方は少ないが、食事の下膳やテーブルを拭いたり出来る事は自分でしていただいている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記載し、変化があればかかりつけ医に相談している。水分補給も本人からの訴え時や入浴後などこまめに行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができていないかの確認を行い、必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、随時および定時の誘導を行い、入居者ができる限りトイレでの排泄が行えるように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムを理解し、水分補給や適度な運動を心掛けている。必要に応じ下剤や浣腸にて対応している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、本人の希望に合わせて、時間をずらしたり曜日を変更したりとの方が入りたいと思うときに入浴できるように対応している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは、ご本人と話しをし不安や心配事を取り除けるように支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。また、内服の変更があった場合は看護師より説明をうけ、連絡ノートに記入し全職員が共有できるようにしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでもらったり、掃除を手伝ってもらうなど役割を持ってもらえるように支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスの影響で外出支援は行えていないが、コロナウイルスが落ち着いたら入居者の希望にそった外出支援ができるように努めたい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金を持っている方は少なく、本人の希望があれば職員が買い物に行っている。外出支援が再開したら、買い物支援などで入居者の希望にそった支援を行いたい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	品物は届いたときに、本人に電話をしてもったり、年賀状を書いてもらったりしている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ手作り作品と一緒に作成し飾っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせて居室で過ごしていただいたり、ホールで過ごしていただいている。入居者同士、訪室して利している方もいる
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に本人の使い慣れた物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾り入居者ひとりひとりが心地良く、その人らしく過ごせる様に工夫している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来る事は時間が掛かってもゆっくり自分のペースでしていただけるように支援している